

算数授業のめあてとポイント

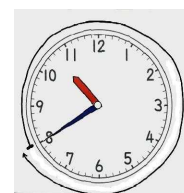
令和6年7月号

東京書籍対応

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学 年	単 元	単元のめあて と 授業のポイント
1 年	2巻⑤ どちらが ながい 同様単元 K9月⑪ G11月⑬	◎単元のめあて(例) ながさの くらべかたを かんがえて、はなそう。 ◎授業のポイント 直接比較 → 間接比較 → 任意単位を用いた比較の順に、必要感をもって長さを比較する。 《 直接比較 → 間接比較に進むには 》 直接比較ができない場面を扱う。 (例) 机(本)の縦と横の長さを、テープの長さで比べる。 《 間接比較→任意単位に進むには 》 間接比較がでにくい場面(間接比較で用いたテープ等を用いない)を扱う。 (例) 机(本)の縦と横の長さを、鉛筆の本数で比べる。
2 年	上巻⑥ 上巻⑦ 時こくと 時間 同様単元 K4月③ G4月② (時刻と時間の 違い) G1月⑩ (0分間後の時刻)	・ 6月号参照 ◎単元のめあて(例) ^じ時^{じかん}こくと^{かた}時間^{かんが}の ^{めい}もとめ方を ^{めい}考えて、^{めい}せつ明しよう。 ※「時こくと時こくの間が時間」を知った後、単元のめあてが つかめるようにする。 ◎授業のポイント 1年では、模型の時計などを用いて、何時何分のように、時刻を読んだり用いたりした。 2年では、図や 時計の針の動きを基に、時刻と時間の関係や日・時・分の関係が理解できるようにする。 - 時刻と時刻の間の大きさが時間であるが、時刻と時間は 混同しやすい。そこで、時間の指導に当たっては、何時^間何分^間と表して、「^間」を付けて、時刻との混同を避けることが大切である。 慣用的に「^間」を省くのは、時刻と時間の関係が 十分理解できた後に許容する程度に扱うのが望ましい。 - 時計の短針や長針の動きを基に、経過した時間や経過した後(する前)の時刻を求め、その中で 1時^間=60分^間が理解できるようにする。 〈問題(例)〉 ① 10時40分から11時20分までには、何分^間ありますか。 ② 10時40分から1時^間後は、何時何分ですか。 ③ 10時40分の30分^間前は、何時何分ですか。 ・生活の中で、朝の7時と夜の7時のように、7時が1日に2回あることに気付いて、「午前」「午後」「1日=24時間」が 理解できるようにする。
3 年	上巻⑥ 上巻⑦ 暗算 同様単元 K7月⑦ G5月④	・ 6月号参照 ◎単元のめあて(例) 2けたのかずの たし算ひき算のしかたを ^{あん}暗算で考えて、せつ明しよう。 ◎授業のポイント 計算の結果について、見通しを持つことが大切である。たす数ひく数について、繰り上がり繰り下がりのない場合と ある場合の範囲を明らかにしてから計算するようにする。



4 年	上巻⑤	• 6 月号参照
考える力をのばそう	◎単元のめあて(例)	「もとの数を何倍かして それにもう 1 つの数をたす」ときの もとの数の求め方を考えて、説明しよう。
	• 共通部分を□とすると、 $\square \times a + b = c$ の問題となる。□は、「たいち」と「りこ」の共通部分の 1 つ分を表す。	
	◎授業のポイント	• 児童自身が図をかいて 数量の関係をつかみ、はじめの数を求める問題であることに気付くようにする。 • 数量の関係を図や線を用いて表し、それをもとに立式し、説明できるようにする。 新学習指導要領で重視される説明力を高める単元である。
そろばん	◎単元のめあて(例)	小数や整数の たし算ひき算を そろばんで計算するしかたを考えて、説明しよう。
同様単元 K10 月 G11 月⑬	◎授業のポイント	• 小数も大きな整数も、単位となる数(0.1, 1 億など)を 1 つ分として、今までの整数と同じように $9 + 2 \rightarrow 9 + \textcircled{10} - 8$ などの 数の多面的な見方や感覚を大切にしながら、そろばんで計算できるようにする。
5 年	上巻⑥ 合同な図形	◎単元のめあて(例)
		形も大きさも同じ図形の性質を見つけ、かき方を考えて、説明しよう。
	◎授業のポイント	• 形も大きさも同じ図形を重ねてみる中で、それらの図形が重なり合うことに気付くことが大切である。 • 次のように、合同な三角形になる条件を考えることは、直感を基にして論理的思考力を育てるのに適している。→ 暗記で処理しないように。
	同様単元 K6 月⑦ G4 月②	

6 年	⑤比	◎単元のめあて(例)
		2つの数を使って割合を表す表し方を知り，その利用のしかたを考えて，説明しよう。
	同様単元	◎授業のポイント
	K10 月⑩	・実生活との関連を考慮して，導入で「比を利用すると,役に立つなあ。」という実感がもてるような数学的活動を工夫する。
	G10 月⑪	(例) こい飲料水と水は，何：何でうすめる時に おいしいか調べよう。 「10：40」と「20：80」は，味が一緒ということにも 気付きやすい。
		・比を用いる良さ ・整数の組み合わせのままで考えることができる。 ・いつでも再現が可能(同じ味ができる)。

<お知らせと お願い>

「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき，日々の実践に役立てて下さい。

なお，これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は，

seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。

(スパム対策です。お手数ですが _atmark_ を，@に直して下さい。)